

試験改正された技術士の 取得を目指して

— 技術士（建設部門：河川、砂防及び海岸・海洋） —

1. 受験の動機・経緯

受験の動機ですが、日頃から仕事を通じて先輩技術士の方々と接しており、技術士という存在に関心がありました。また、技術者として長く働くために、専門的能力を目に見えるかたちで示す資格の取得が有用と考えました。そこで、技術士のうち建設部門（河川、砂防及び海岸・海洋）を受験しました。

受験の経緯は、平成24年10月に第一次試験を受験しました。大学で土木工学を学んでいたため共通科目は免除で、それ以外の試験（基礎、適性及び専門の3科目）を経て、合格することが出来ました（なお、平成16年以降に日本技術者教育認定機構（JABEE）が認定した教育課程を修了した方は、第一次試験を免除されます）。その後、仕事の都合などがあり1年を空けて、平成26年度に第二次試験を受験しました。まず、8月の筆記試験（必須1科目及び選択2科目）を受けました。さらに、12月の口頭試験（経歴・応用能力、技術者倫理、及び技術士制度その他の3科目）を経て、合格することが出来ました。第二次試験に合格すると、氏名、部門などが官報に掲載されます。

念のため、令和元年度に試験方法が改正されています。技術士に求められる本質的な部分は

変わらないと思いますが、第二次試験の必須科目が択一式から記述式になるなどの変更があります。令和2年度以降の受験準備をされている方は、改正して初めての年にあたる令和元年度の出題内容を確認したうえで、今後の試験に臨んで頂ければと思います。

2. 第一次試験

基礎及び適性の部分、また、専門（すなわち、建設部門）の部分について、それぞれ多くの市販書籍が出版されています。私は、そのうち建設部門の書籍を復習のため通読しました。なお、受験当日の朝、試験会場である自宅近くの大学の門をくぐったとき、久しぶりに試験を受けるためか学生に戻ったような緊張感があったのを覚えています。

JABEE認定により一次試験を免除になる方もいらっしゃると思いますが、技術士に求められる資質などの基礎的知識を確認する意味でも、第一次試験対策の書籍を手にとって見てみると良いかも知れません。

3. 第二次試験

筆記試験（必須科目）

試験方法が改正された令和元年7月の試験は、

2つの設問のうち1つについて記述式で答案用紙3枚以内にまとめるものでした。設問のテーマはそれぞれ生産性向上に関するもの、国土強靱化に関するもので、いずれも4つの小問が設定されていました(詳細は、日本技術士会のホームページで公開されています。実際の問題をご覧下さい)。出題対象は建設部門全般であり、テーマを予想して絞り込むのは難しいと思います。従って、時事的なものも含め国土交通分野の動向を幅広く知っておく必要があります。対策は、例えば国土交通白書や、キーワードをまとめた市販書籍の活用が考えられます。また、令和2年度以降も小問の形式などが踏襲されるかどうかは分かりませんので、注意が必要です。

筆記試験(選択科目)

令和元年7月の試験は、複数の設問のうち合計3つについて記述式で回答するものでした。いずれも、受験者の方がこれまで培われた経験を活かしつつ、規定時間・枚数で文章にする必要があります。事前準備では、例えば過去問題を本番と同様に解いてみるのが良いと思います。また本番試験では、論文を書き始める前に要点メモを作ることをお勧めします。メモがあれば、必ず盛り込むべき項目の書忘れといったミスが減りますし、全体の章立てを可視化できて時間配分を考えるのに役立ちます。メモはきちんとした文章の必要はなく、章番号、タイトルと、それぞれにキーワード数個を問題用紙余白に書くだけで十分だと思います。

口頭試験

実務能力(コミュニケーション・リーダーシップ、評価・マネジメント)、及び、技術士と



国土交通省 国土技術政策総合研究所
津波・高潮災害研究官

くまがい けんたろう
熊谷 兼太郎

(取得した資格：技術士(建設部門：河川、
砂防及び海岸・海洋))
資格取得年度：平成27年3月

しての適格性(倫理、継続研さん)を問われる見込みです。私は、試験申込み時に作成した業務経歴票を見直すとともに筆記試験で書いた内容を思い出すことで、口頭試験に備えました。

4. 資格の活用

技術士の資格は入札の加点や監督者の要件の対象となっていたり個人の専門的能力の目安となっていたりして、色々な面で活用されていると感じます。

また、読者のなかには発注者の立場で、日常の業務において受注者と一緒に仕事をしている方がおられると思います。既に過去号に書いている方がいらっしゃると思いますが(2018年10月号本欄)、発注者と受注者は対等の立場ですから、受注者に資格を要求するのであれば発注者も同等の資格を求められてもおかしくないと思います。この点はあくまで個人的な考えですが、受験の動機の一つとしてヒントにして頂ければ幸いです。